

12月うぶやま天文台星空情報 3

ふたご座流星群が極大



天天空が広がる一覽三山の台(久住山系、祖母山系、阿蘇山系の山々を一望できる)であるうぶやまの高原には、雪が舞う季節になりました。大変、寒いのですが、冬は空気が澄み切っていて星空は一番きれいです。

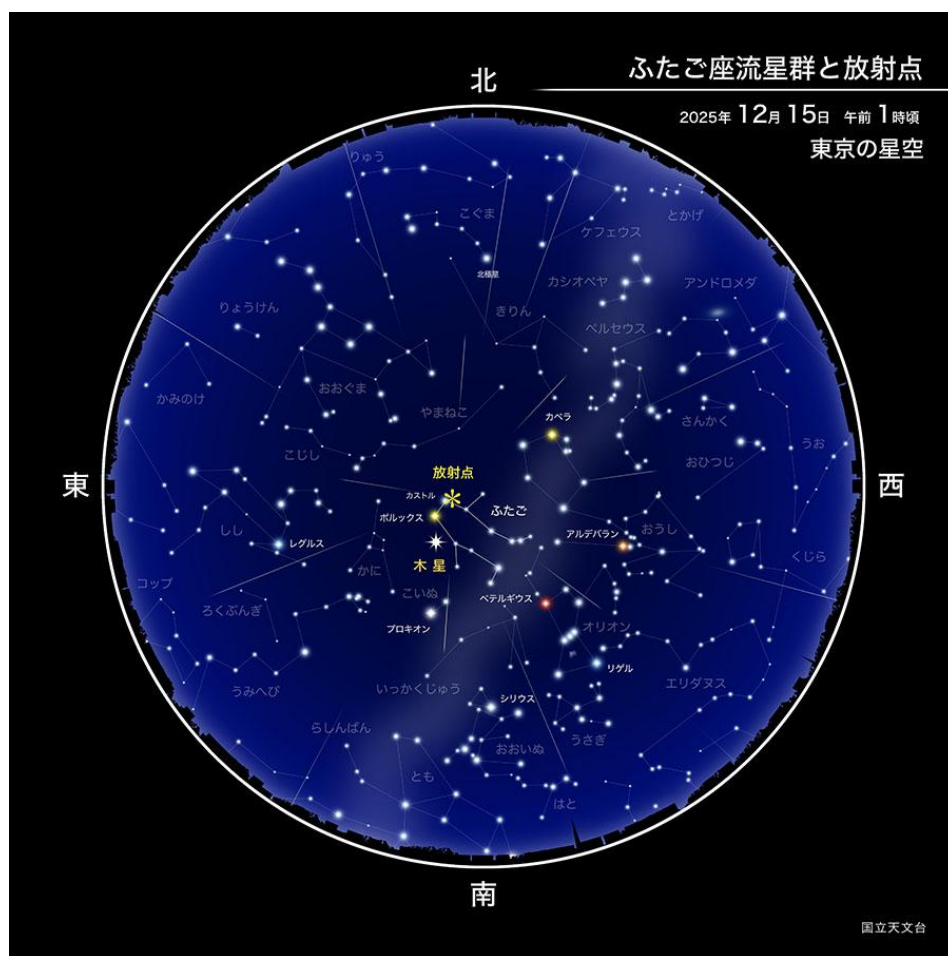
晴れていれば肉眼で見える限界の6等星や天の川まで見える素晴らしいうぶやまの星空を楽しみませんか。

12月のうぶやま天文台の星空情報の第3弾は、12月14日に極大を迎える三大流星群のひとつふたご座流星群です。年間で最大の流星群のふたご座流星群が極大を迎えます。2025年のふたご座流星群の活動は12月14日17時頃に極大となることが予想されています。12月3日夜から14日明け方までと、14日夜から15日明け方までの2夜は、普段よりもかなり多くの流星が見られそうです。未明の時間帯には下弦を過ぎた半月よりやや細い月が昇ってきますが、月明かりの影響はそれほどでもなく、好条件のもとで観察出来そうです。

最も多く流星が見られる極大夜は、12月14日夜から15日明け方にかけてと予想されます。空の暗い場所で観察した場合、14日21時頃にはすでに1時間当たり30個程度の流星が見えることが予想されています。放射点が高くなる14日23時から15日2時頃にかけては、1時間当たり50個程度の流星が見えることが予想されています。その後は細い月が昇ってきますが、明け方にかけて1時間当たり35個から45個程度の流星が予想されています。極大の前日にあたる12月13日夜から14日明け方にかけても、かなり多くの流星が見えることが予想されています。空の暗い場所で観察した場合、14日0時から4時頃に欠けて、1時間あたり40個から45個程度の流星が見えると期待されます。

流星は放射点を中心に放射上に出現しますが、放射点ばかりではなくどちらの方向にも出現しますので、なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。また、屋外の暗さに目が慣れるまで、最低でも15分ほどは観察を続けると良いでしょう。レジャーシートを敷いて寝転んだり、背もたれのある椅子に座ったりすると、楽な姿勢で観察できます。寒さ対策をしっかりと行ってください。事故などに遭わないように十分注意し、マナーを守って観察をしてください。

(次ページに続きます。)



月が木星に接近